

研究科に対する院生の意見・評価アンケート

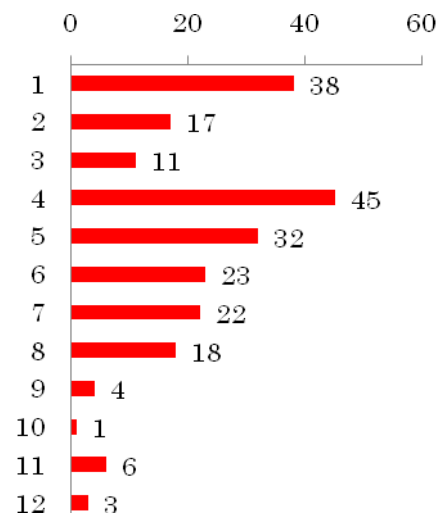
言語文化研究科は、平成 22 年 11 月 8 日（月）から 11 月 30 日（火）までの期間に、KOAN を利用して、言語文化専攻と言語社会専攻の在学学生を対象にアンケート調査を行いました。研究科の教育研究や設備の充実と改善に資することを目的に、評価委員会が中心となって実施したものです。以下にそのアンケート結果と研究科からの回答を示します。言語文化研究科は、ほとんど同一のアンケートを 3 年前にも実施しました。当時、言語社会専攻の学生はまだ対象外でしたので、また回答数も前回と今回で異なりますので、数字を単純に比較することはできませんが、参考のために、その大まかな比較も行いました。具体的な要望等についても簡単なコメントを付しました。

質問項目および回答

質問 1：あなた自身のことについてお尋ねします。該当する項目にすべてチェックを入れてください。

【複数選択可】

- 1 国籍：日本
- 2 国籍：日本以外
- 3 性別：男
- 4 性別：女
- 5 専攻：言語社会
- 6 専攻：言語文化
- 7 博士前期課程 1 年次
- 8 博士前期課程 2 年次
- 9 博士後期課程 1 年次
- 10 博士後期課程 2 年次
- 11 博士後期課程 3 年次
- 12 その他（特別研究学生、特別聴講学生、研究生）



<回答>

国籍

日本	日本以外
38	17

性別

男	女
11	45

専攻

言語社会	言語文化
------	------

32	23
----	----

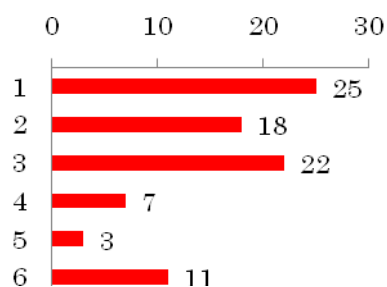
在籍年次

M1	M2	D1	D2	D3	その他
22	18	4	1	6	3

質問 2：言語文化研究科について何で知りましたか。該当する項目にすべてチェックを入れてください。

【複数選択可】

- 1 所属大学・大学院の教員
- 2 先輩・知人
- 3 言語文化研究科ホームページ
- 4 言語文化研究科ポスター
- 5 大学院紹介誌
- 6 その他



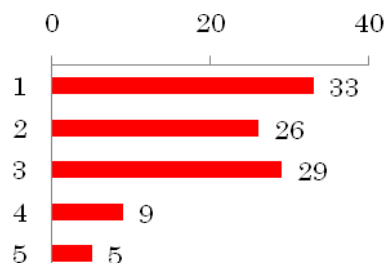
<回答>

回答番号	1	2	3	4	5	6
回答数	25	18	22	7	3	11

<コメント：3年前と比べると、前回3位だった「所属大学・大学院の教員」が増えて1位になりました。各大学の教員のあいだで、本研究科に対する認知度が高まったことがひとつの原因といえるでしょうか。>

質問 3：言語文化研究科入学を希望した理由は何ですか。該当する項目にすべてチェックを入れてください。【複数選択可】

- 1 言語文化を研究したかったから
- 2 研究指導を受けたい教員がいるから
- 3 修士や博士の学位を取りたかったから
- 4 就職に役立つと思われたから
- 5 その他



<回答>

回答番号	1	2	3	4	5
回答数	33	26	29	9	5

<コメント：回答数の1位、2位、3位の順位は、3年前と同じです。>

質問 4：上の質問で「その他」にチェックを入れた場合にはそれを具体的にお書きください。【記述式 400 文字以内】

<回答>

（言語文化専攻）

○試験を受けた当時、9月に1ヶ月実習が入っており、多くの研究科は9月に試験実施だが、言語文化研究科だけが8月実施だったので、とても助かりました。

○専攻関連分野の教員数が多く、研究環境がよいと思ったから。

○より自由な雰囲気勉強をしたかったから。

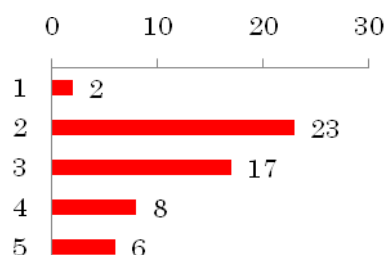
（言語社会専攻）

○英語教員リカレントコースがあり、専修免許を取得するため。

○自分の研究内容に近い研究科があったから。

質問 5：開講されている授業科目の種類や数は十分だと思いますか。【1つ選択してください。】

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

回答番号	1	2	3	4	5
回答数	2	23	17	8	6

<コメント：「どちらともいえない」以上の割合は、前回は約 81%、今回は 75%です。おおむね良好な結果といえますが、「そう思わない」と「全くそう思わない」の割合が、残念ながらやや増えた結果となりました。>

質問 6：上の質問で「そう思わない」「全くそう思わない」の場合、どのような種類の授業の開講を希望しますか。【記述式 400 文字以内】

<回答>

（言語文化専攻）

○形式主義の言語学に関しては、例えば現在は開講されていないと思われる形式意味論・音韻論の最適性理論などの講義を含め、アメリカの大学院などと同等の科目の教育が受けれる程度にカリキュラムを充実させて欲しい。

○言語教育についてもっと直接的に考えることができる授業

<コメント：上の 2 点については質問 20 の「★研究指導、授業内容等について」をご覧ください。>

○日本語学や日本語教育学、第二言語習得について勉強したいと思っています。

(言語社会専攻)

○豊中キャンパスと箕面キャンパスを合わせて考えると、開講科目は豊富だと思いますが、箕面キャンパスに関して言えば、言語学系の授業が少なすぎます。

○言語文化を研究するにあたって、研究理論として言語学が必要になるので言語学のあらゆる分野を網羅するような授業、それぞれの分野を掘り下げる授業を開講してほしい。

○箕面キャンパスで大学院生のために開講されている授業数が少なく、一年間に履修できる授業数が少ないと思う。また、大学院で教職をとる場合に、履修できる授業が少なく、授業の曜日や時間も重なっているため、実質的に 2 年間で履修するのは難しい。

○教育で使用できる統計の授業、研究というものに関わる哲学的な授業

○大学院後期課程の科目だけでは選択肢はほとんどないと言っていいと思います。(自分の専門にしているものに関して)。ただ、学部の授業や、前期課程の授業を聴講する形をとっているので、不都合は感じません。だから、学部も前期課程・後期課程でも参加できる授業の開講を希望します。

○必須演習科目の曜日が偏っており、また同時に時間帯も同一であるため受講が困難である。

○もっと授業科目を増やしてほしい。もっと開講時間の選択肢がほしい。もっと社会系の授業を充実させてほしい。

○授業科目の種類や数が不十分だとは思わないが、受講したい複数の授業が同じ時間帯に開講されている場合は、結局、1つしか受講できない。

○言語の授業科目は十分ありますが、私が専攻している日本文化の授業科目は比較的に少ないと思います。

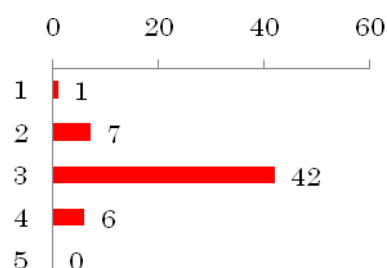
(専攻不明)

○英語教育に特化する教員の採用、授業の開講を希望します。

<コメント：この点については質問 20 の「★研究指導、授業内容等について」をご覧ください。>

質問 7：現在所属している課程の修了要件単位数はどう思いますか。【1つ選択してください。】

- 1 多い
- 2 やや多い
- 3 ちょうどよい
- 4 やや少ない
- 5 少ない



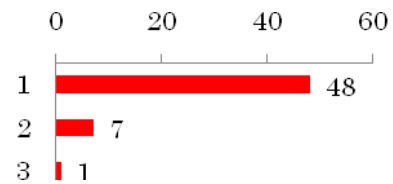
<回答>

回答番号	1	2	3	4	5
回答数	1	7	42	6	0

<コメント：前回とほぼ同じ割合で、修了要件単位数が支持されています。>

質問 8：あなたは熱心に授業に出席していますか。【1つ選択してください。】

- 1 ほとんど出席している
- 2 まあまあ出席している
- 3 あまり出席していない



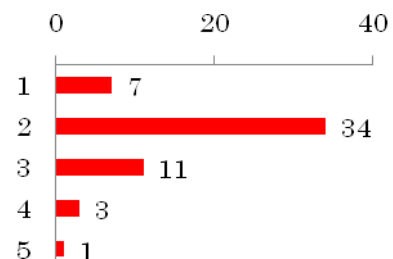
<回答>

回答番号	1	2	3
回答数	48	7	1

<コメント：前回とほぼ同じ割合で、良好な状況を示しています。>

質問 9: 授業内容はシラバスや授業計画に書かれていたとおりの内容でしたか。【1つ選択してください。】

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



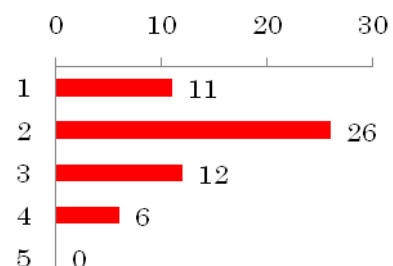
<回答>

回答番号	1	2	3	4	5
回答数	7	34	11	3	1

<コメント：前回とほぼ同じ結果ですが、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が、前回の約 63%から今回の約 73%へと増えました。>

質問 10：全体として授業内容に満足していますか。【1つ選択してください。】

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

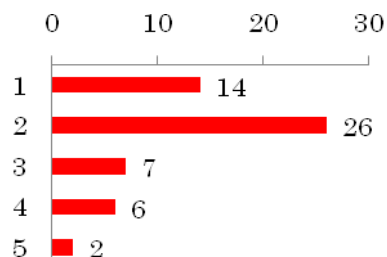
回答番号	1	2	3	4	5
------	---	---	---	---	---

回答数	11	26	12	6	0
-----	----	----	----	---	---

＜コメント：前回とほぼ同じ結果で、授業内容の満足度は高いことがうかがえます。ただし、前は「強くそう思う」が2位だったのに対して、今回は「どちらともいえない」がわずかにそれを上回る結果となりました。＞

質問 11：研究や論文の指導体制に全体として満足していますか。【1つ選択してください。】

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



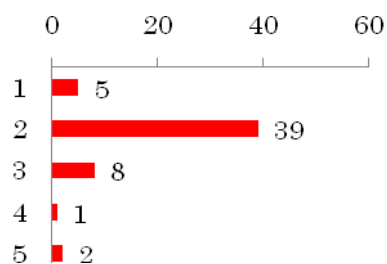
＜回答＞

回答番号	1	2	3	4	5
回答数	14	26	7	6	2

＜コメント：回答数の順位は前回と変わりませんが、前は「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合が約48%であったのに対し、今回は約73%と、その数字が大きく改善されています。＞

質問 12：修士論文や博士論文などの中間発表・本発表の回数や時期は適切だと思いますか。【1つ選択してください。】

- 1 強くそう思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



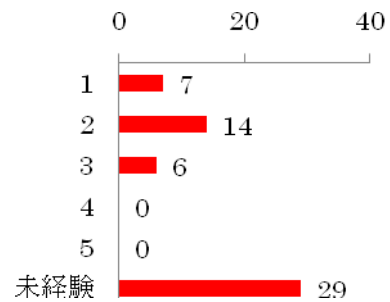
＜回答＞

回答番号	1	2	3	4	5
回答数	5	39	8	1	2

＜コメント：前回とほぼ同じ結果ですが、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、前回は約52%であったのに対し、今回は80%と、その数字が大きく改善されています。＞

質問 13: 全学共通教育 TA 経験者にお尋ねします。TA の経験は有益でしたか。【1つ選択してください。】

- 1 強く思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



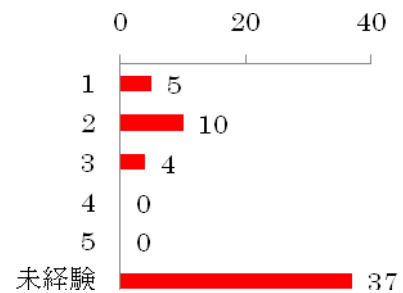
<回答>

回答番号	1	2	3	4	5	未経験
回答数	7	14	6	0	0	29

<コメント：「強く思う」と「そう思う」を合わせた割合は前回とほぼ同じです。全学共通教育での TA の経験が院生にとって有益と捉えられていることが分かります。>

質問 14：本研究科 TA 経験者にお尋ねします。TA の経験は有益でしたか。【1 つ選択してください。】

- 1 強く思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



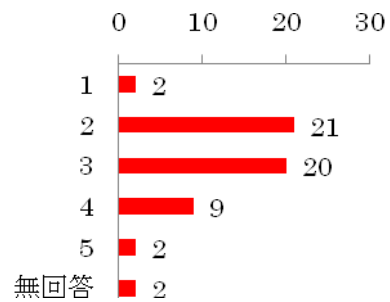
<回答>

回答番号	1	2	3	4	5	未経験
回答数	5	10	4	0	0	37

<コメント：「強く思う」と「そう思う」が、前回と同様の高い数値を示しています。研究科授業での TA の経験も、院生にとって有益であることがうかがえます。>

質問 15：本研究科の図書設備や図書の質・量に満足していますか。【1 つ選択してください。】

- 1 強く思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



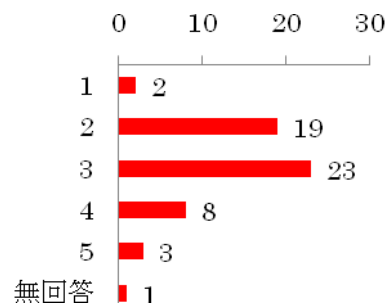
<回答>

回答番号	1	2	3	4	5	無回答
回答数	2	21	20	9	2	2

<コメント：この数値からみると、「どちらともいえない」以上が前回の約 58%から今回の約 80%と改善されています。>

質問 16：本研究科の研究設備や機器の運用などについて満足していますか。【1つ選択してください。】

- 1 強く思う
- 2 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 そう思わない
- 5 全くそう思わない



<回答>

回答番号	1	2	3	4	5	無回答
回答数	2	19	23	8	3	1

<コメント：「どちらともいえない」以上の数値が高いのは前回と同じですが、前回は「そう思う」が1位で「どちらともいえない」が2位であったのに対し、今回はその回答数がわずかながら逆転しています。>

質問 17：上の質問で「そう思わない」「全くそう思わない」の場合、どのような設備・機器の設置を希望しますか。【記述式 400 文字以内】

<回答>

(言語文化専攻)

○英語以外の言語で書かれた論文や書籍等を検索・閲覧できるシステム。言文の資料室においてある雑誌等をオンラインでも検索できるようなシステムは出来ないでしょうか。

＜コメント：どの程度までの検索・閲覧を望むかにもよりますが、これについては大学図書館全体の検索システムを利用するか、各資料室で直接調査してもらうのが現実的な方法かと思います。質問 20 の「★ホームページに関する要望」もご覧ください。＞

○音声分析の機器や音声学の研究設備についてももう少し教えていただける機会があればと思います。より学生が容易に機器を運用できるようにしていただきたいです。

＜コメント：関係教員に要望を伝えますが、院生の皆さんが各教員にリクエストする積極性も必要だと思います。＞

○以前よりは改善されていると思うが、未だにパソコンの不備が多い。他研究科のように情報ネットワーク関連の部署が充実、効率良く機能していないからであろう。

＜コメント：質問 20 の「★設備・施設等に関する要望」を参照ください。なお、言語文化研究科には、要員不足のため「情報ネットワーク関係の部署」といえる組織はありませんが、「ネットワーク運用委員会」や「設備・施設マネジメント委員会」などの委員会が協力して問題解決に努めていることはご理解ください。＞

（言語社会専攻）

○院生が使えるスキャナー、コーパスやコンコーダンスなどのソフト。

○パワーポイントなどが使用できる教室を増設してほしい。また各学生がインターネットをノートパソコンからアクセスできるためのラン、または無線ネットワークなどの設備設置を希望します。

○博士前期課程の箕面キャンパスでは、大学院生の数に対して、研究室が狭く、パソコンの台数も少なすぎるため、研究室で十分に研究できる環境とは感じられない。実際、家で研究している人も少なくない。最低一人に 1 台の机と十分な台数のパソコンは準備してほしい。また、コピー機の台数も少ないので、2 台に増やしてほしい。

○統計ソフトなどが入ったパソコンが見当たらない。院生の数に対してノートパソコンが少ないと思う。もっとあればいいと思う。

○言語社会専攻の院生室が足りないと感じています。勿論現在院生室はいくつかありますが、色んな専攻している院生方々が来れるのです。さまざまな専攻の人と交流できますが、たまにも同じ専攻している院生ともっと深く論じたいときもあります。この辺も是非お願いしたいと思います。（院生室と言っても、留学生も気軽に行って皆さんと一緒に研究について論じる場所を設置を希望しています。）

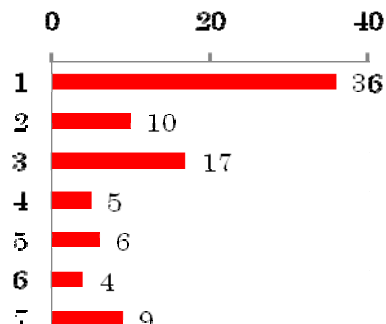
○コピー機をもっと増やしてほしい。カラーコピーもできるものがほしい。

＜コメント：言語社会専攻に関わる上記の要望等については、以下にまとめて回答します。＞

- ・施設については、質問 20 の言語社会専攻のコメントをご覧ください。
- ・大学院充実費から支出できる範囲内で、引き続き大学院生の研究環境の充実を図ります。パソコン等の情報機器については、減価償却期間を越えたもの、スペックが著しく低く研究活動に耐えないものについては、順次新しい機種と交換してゆく予定です。故障している機器については、修理あるいは新機種購入を検討します。また、できるかぎりパソコンの台数も増やしたいと考えておりますが、予算や設置場所に限りがありますので、箕面キャンパス内の他の関係施設の利用も視野に入れていただければ幸いです。ソフトについては、共同利用率の高いソフトの購入を積極的に検討します。カラーコピーは今の機種でも利用が可能です。コピー機の増設については、利用率、対費用効果、エコ性を踏まえて検討します。

質問 18：修了後の就職先として、どのような職種を考えていますか。希望するものを 3 つ以内で教えてください。【複数選択可】

- 1 大学・短大・高専などの高等教育機関
- 2 小・中・高校などの初等中等教育機関
- 3 一般企業
- 4 国連関連機関
- 5 公務員
- 6 ジャーナリスト
- 7 その他



<回答>

回答番号	1	2	3	4	5	6	7
回答数	36	10	17	5	6	4	9

<コメント：「大学・短大・高専などの高等教育機関」の希望数が一番多いのは前回と同じですが、今回はその割合がやや減り、「一般企業」の割合が増えています。>

質問 19：上の質問で「その他」にチェックを入れた場合にはそれを具体的にお書きください。【記述式 400 文字以内】

<回答>

（言語文化専攻）

○翻訳などの自営業。

○全く未定。

○仕事で、英語を担当して参りましたが、その関係上、日本における英学史を少しでも調査、研究を深めたいとの思いから、退職後、入学させていただきまして、今日に至っている次第です。現在の研究テーマをライフ・ワークとして日々、努力致したく考えます。万一、自分が思っております研究結果が得られましたら、復職も希望致しておりますが、まだ、具体的な職種は、考えられない状況にありますので、「その他」にチェックさせていただきました。

（言語社会専攻）

○もし大学での就職が無理のであれば、通訳者・翻訳者、または観光ガイドとして就職することも考えています。

○定年退職後の研究なので、具体的に就職は希望していません。

○現在博士前期課程なので後期課程に進学を希望しているが、就職についても検討中である。

○日本語教育機関（国内外）

○年齢が高いので、具体的な就職先については考えていません。院で学んだことを生かせる仕事に就くことができればいいな…という感じです。

○テキスト、研究、論文集などの翻訳家

質問 20 : 本研究科の教育研究面、設備面に関してお気づきのことがあれば、以下に自由に記述してください。【記述式 400 文字以内】

自由記述の投稿と研究科の回答

★最初に

自由記述欄に記入された意見や要望と、それに対する研究科の回答を以下に記します。言語文化専攻と言語社会専攻とでは、キャンパスが箕面と豊中に分かれていることや、両専攻の教育がそれぞれの特徴をもつことなどから、設備やカリキュラムにも違いがみられるため、自由記述と研究科の回答も専攻別にまとめてあります。また、意見や要望の内容により、いくつかの項目に整理していますので、1つの回答に盛り込まれた意見や要望が別々の項目に割り振られている場合もあります。寄せられた意見・要望の文章は、一部表記を統一したほかは原文のままです。小見出しなど編集上の言葉は【 】に入れています。

さまざまな要望のなかでも、設備や施設などに関しては、現在の厳しい財政状況から、おのずから限界がありますが、研究科としてこれまで行ってきたこと、これから検討していきたいことなどをお答えします。

(言語文化専攻)

★設備・施設等に関する希望

○[図書] もう少し書籍が充実していればと思います。総合図書館は理科系の本は充実していますが人文系、とくに言語関連の本は少ないので。／図書購入リクエストが年1回しかないので、複数回に分けてもらえると助かります。

＜回答: 研究科棟の3階には大学院の資料室がありますが、そこにすべての分野の書籍を揃えることは、資金の面でもスペースの面でも無理があります。また、この資料室の図書は大学図書館の蔵書の一部にすぎません。研究科の他の資料室や、他学部・他研究科の資料室・図書室、大学全体の各図書館なども活用してもらうことが必要でしょう。

また、言語文化専攻では、毎年、大学院充実費をいう予算枠を設け(平成20年度400万円、21年度500万円、22年度600万円)、それを図書の充実のためにも使っています(平成20年度200万円、21年度300万円、22年度300万円)。院生の皆さんにも購入希望を募っていますが、希望数が少なく、再募集していることも多いので、この制度も積極的に利用してください。その機会を年に複数回提供することはたしかに望ましいでしょうが、予算執行等の問題もありますので、この点については図書委員会で検討してもらうことにします。＞

○[Windows用パソコン] Windows用のパソコンが古いので故障を防ぐ意味合いでも予算に余裕がある際は買い換えた方がいいと考える。／言文の windows のパソコン室により性能の良いパソコン設備を希望します。言文にはパソコン室がありますが、インターネットの接続がよくなかったり、パソコン自体の起動が遅いものがあり不便ことがあります。また、部屋自体が汚れていて、パソコンのキーボードなどもかなり汚れているものがあり、老朽化しているように思います。システム、設備とも

に新しいものにしていただけることを希望します。

＜回答：研究科では上述の大学院充実費を用いて、毎年、院生の皆さんが使用するパソコンを更新することに努めています。Windows 用のパソコンについては、平成 20 年度に 4 台、21 年度に 7 台、22 年度に 4 台、新しいものに入れ替えました。予算の制約から、100 パーセント最善の状態を維持することは困難ですが、今後も可能な限りパソコンの更新に努めたいと思います。

インターネットの接続については、平成 22 年 11 月に設備を更新しましたので、接続環境は向上しているものと思われます。パソコン自体が古い場合などはこれに当てはまりませんが、順次更新を図っていききたいと思います。

部屋が「汚れている」という点については、床や壁の状態など、大きな問題があれば研究科で対処しますが、部屋やパソコンのキーボードの清潔さを保つには、利用者の皆さんの心がけや協力も不可欠でしょう。キーボード等を自主的に清掃してもらうための OA クリーナーも設置してありますが、ほとんど使われていないようです。以下の投稿にもありますが、共用のスペースを利用する際のマナーの向上も、研究科として呼びかけていきたいと思います。＞

○[共用スペースでのマナー] 私は博士後期課程の言語文化専攻の院生です。ここ数年、とても気になっていることがありますので、お伝えします。それは、5 階のパソコン室や、院生室の空いている場所（席）を自分のものにしてしている人がいることです。特に、5 階のパソコンの部屋に入って右奥の方などは、非常に沢山の私物を持ち込み、その場所は誰一人として使うことができない状況です。研究科を私物化しないということは、以前院生会でも話題に上がったことなのに、なぜ、未だに許されているのでしょうか？彼らの横柄な態度は、注意され、改善されるべきです。ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

＜回答：研究科は昨年の夏、パソコン室や廊下などの共用スペースの利用に関する問題指摘を受け、3 階（307 室）、5 階（502 室）、6 階（607 室）のパソコン室には、「静寂を保って下さい 飲食物は持ち込まないで下さい 私物を置いたままにしないで下さい 備品を勝手に持ち出さないで下さい 濡れた傘を持ち込まないで下さい」という張り紙を掲げました。それがまだ十分に尊重されていないとすれば残念ですが、この点については、利用者の皆さんの間での理解も必要だろうと考えます。研究科としては、院生会とも相談するなどして、共用スペースの適正な利用を今後も呼びかけていきたいと思います。＞

○[コピー機] コピーが 1 台しかなく、よく並ぶので、あと 1 台あれば、助かります。／コピーが年間 1000 枚というのは少ないです。使い切ってしまうと、コピーのためによそに行かなければいけませんので、追加費用は使用者負担の形でいいので、1000 枚以上使えるようにして頂きたいです。また、コピー機のスキャナ機能も使えると有り難いです。

＜回答：コピー機が 2 台あればいい、使用者負担でも 1000 以上コピーが使えればいい、これらの要望の趣旨はよく分かりますが、前者は財政的な面で、後者は会計処理上の問題で、現在のところ難しい状況です。コピー機を使うのによく並ぶのは教員も同様ですし、研究科では、費用の問題だけでなく資源保護のためにも、できる限りコピー枚数を減らすことに努力しています。研究上コピーが必須なことは十分理解できますが、一般論として、その枚数を最低限必要な程度に抑える心がけも重要なことだと思います。スキャナ機能については、その設定の可能性を検討します。＞

○[時計] コンピュータ室に時計があると助かります。パソコンの時間が間違っていたり、パソコンによって時間が違うので、困っています。いつの間にか時間がたってしまうので、時計が必要と思います。

また5階の印刷室にも時計がないので、あればとても便利です。

<回答：大学院充実費により設置することを検討します。>

○[トイレの石鹸等] トイレに石けんが置いてあるところがまちまちなので、ちょっと不衛生。4階の水道水を飲みたいと思っているが、みんなにその水道は1回も洗っていないので汚いと言われている。

<回答：予算上可能なら、今年度中に各トイレに水石鹸の設備を整える計画です。飲料水については、浄水器が設置してある5階印刷室（503室）の水道を利用してもらいたいと思います。>

○[設備には困っていない] 設備面は大勢が使うのだからシステム・ダウンはもっと頻繁にあるかと思ったが、頻度が大変低くて感心している。別に困ったことは一度もない。

★ホームページに関する要望

○[研究科ホームページ] HPの充実を望みます。教員の主要論文をPDFでダウンロードできたり、研究科としての方向性がわかるような内容にしてもらいたいです。それぞれの研究分野で教員の先生方が[どのような]最新の研究をおこなっていらっしゃるのか、もしくはどのような理論をお持ちで研究を行っていらっしゃるのかが、[研究科に]入ってみたいと分らないので。

<回答：さまざまな面で研究科ホームページを充実させていくのは、一般論として非常に重要なことと考えています。ただし、教員の研究分野や最新の研究成果などは、大学全体の「教員基礎データ」に集約されていて、研究科ホームページ上の教員紹介もそこにリンクしています。また、教員の論文を入手するのにもさまざまな方法があります。ホームページだけでそれができれば便利に違いありませんが、それには著作権の問題があるほか、教員の時間や労力もかかり、今すぐ実現することは困難です。むしろ、教員の論文だけでなく、さまざまな研究資料を収集する多様な方法を知り、それを活用することが、大学院生の研究能力のひとつとして求められることではないかと思います。>

★研究指導、授業内容等について

○[研究指導、授業等] 研究指導については、修士課程のときに本研究科のゼミを履修したので、きめ細かい指導がなされていることがわかっていた。自分の研究に関係する科目については何一つ不服はない。学会誌や共同研究会のシステムもよくできていると感謝している。欲を言えば、もう少し海外の論文の読解に力を入れてもいいと思う。一部ゼミ生の中には文献の原文での精読ができていない者も見受けられる。「この論文のここから取って」という言葉が抵抗もなく出てきて、引用文献の中の専門用語の意味は暗唱できてても内容について少しも語れないというのはどうか。先生はちゃんと指導されていると思うが…。アカデミックな研究が大衆化し、軽くなっている時代だからかも知れない。

<回答：「質問5：開講されている授業科目の種類や数は十分だと思いますか」に寄せられた意見も踏まえてお答えします。上の回答は、投稿者の研究分野に関する指導や授業については不足ないとの意見ですが、分野によって、教員数や科目の種類に多少のばらつきがあることも事実でしょう。言語文化専攻は、たとえば、平成17年に「言語文化教育論講座」を新設するなど、院生の「ニーズ」に応え

る努力をしてきました。また、そのような努力は今後も必要と考えています。ただし、大阪大学はいわゆる総合大学であり、多様な研究科やセンターによる教育が充実しています。博士前期課程の必須単位のうち 10 単位を他専攻や他研究科等の科目で充当することができる制度も、本専攻あるいは本研究科で不足している種類の授業をそれらの科目で補ってもらうことを目的にしています。院生の皆さんには、本専攻・本研究科だけでなく、大阪大学全体で学ぶという意識ももってもらいたいと考えています。

文献の原文を原語で精読するという点については、それが教育の一環として非常に重要なことはたしかでしょう。ただしそれは、各授業の内容や目的に応じて行われることかと思います。また院生の皆さんには、授業のためだけではなく、常日ごろ取り組んでももらいたいことでもあります。「アカデミックな研究が大衆化」したことも事実でしょうが、その研究が「軽くなる」ことは困りますので、院生の皆さんの意見や要望も受けながら、教育の質の維持や向上に努めていきたいと思っています。＞

（言語社会専攻）

- 言文と言社との格差が大きいです。リカレントコースを言社に残した以上、もっと箕面キャンパスで英語教育関係の授業を開設して欲しいです。
- 学生が論文を投稿できるための学内学会誌を増やし、できるだけ論文のレビューなどをえるための機会を多くしてほしい。そうすれば、修論、博論などの準備をかねて投稿者が増えると思います。
- マイナー言語専攻の専攻科目の選択肢がない。 修了必要単位を揃えるためには、他専攻や、他言語を履修しなければ間に合わない。私は言語社会専攻フィリピン語所属であるが、インドネシア語や日本語専攻の授業を履修し、必要単位を揃えた。 マイナー言語専攻の授業科目不足は、統合前、言語文化研究科言語社会専攻の科目だったものが人間科学科に移ったためだが、現在の言語社会専攻が人間科学科の授業を履修すると専攻外になるため、6 単位まで（？）しか認められない。
- 言語文化研究科言語社会専攻（博士前期課程）では、研究設備面としては十分ではないと感じる。例えば、院生の数に対してパソコンの台数やプリンターの数、コピー機が少なすぎるため、研究する面で困る点が多々あった。また、研究生室も狭く、設備も十分ではないために、研究室が十分に活用されていると感じない。最低でも、人数分の机、十分の数のパソコン、プリンターを設置してほしい。 研究面では、指導教官が熱心に指導してくださり、研究を進められる。しかし、箕面キャンパスでは開講されている授業の曜日や時間が重なっていたり時間数が少ないため、もっと選択肢を増やしてほしい。
- 研究生室の改善をしてほしい。同じコースに所属していながら研究生室が別なのは何かと不便である。
- インターネットで本を借りる期間を延長できるようになったら、もっと便利だと思います。
- E 棟 2 階の総合研究生室のパソコンの調子がたまに良くない場合があります。
- 教育研究面に関しまして、特に問題はないと思います。 設備につきまして、10 月入学の学生の研究室はかなり不便だと思います。幾つかのパソコンにログインすることさえできない。その他、殆どのプリンタが使えなく、使えるものの場合でも度々エラーなどが生じます。
- 他の研究科を知らないの、コメントはできませんが、阪大との統合後、(旧外大ではない) 阪大の他研究科の研究生からの話を聞くと、設備面に関して差があるようです。
- 履修科目の時間帯や曜日に偏りがあることは大変な弊害と考える。
- 論文指導の時間が全くないことに驚いた。

○海外連携コースの実践コース／専修コースは同じコースに在籍しているが、共同で使用する院生室が確保されておらず、なかなか連携が取れていないように感じられる。互いの情報交換や関係強化のためにも、共同して使用できる院生室の確保の必要性を感じる。

○院生室にあるパソコン・プリンターの故障が多く、量があっても使える機器が限られている。また、院生室の利用率がかなり低く、限られた院生しか利用していない。アジアの諸語・欧州語・日本語と院生室を分けるのがよいのではないかと考える。院生レベルになると、同じ部屋を利用することで、横のつながりができるとは思えない。逆に、E棟2階の無駄に広いスペースでは、自分の居場所が定められない上に、パソコン・プリンターもうまく動かないので、結局、足が遠のくのではないかとと思われる。一人に1つの机がある後期院生室も、利用者が限られており、院生が利用したいと考える院生室の在り方について、考えるべきなのではないかと思う。

<回答：言語社会専攻に関わる上記の要望等については、以下にまとめて回答します。>

- ・設備およびカリキュラムについては、質問17の回答をご参照ください。なお、他専攻・他部局の授業を履修した場合の単位認定については、昨年度から10単位（大学院の設置基準で認める上限）まで認められています。
- ・施設については、言語社会専攻のE棟集約化の一環として、分散している院生室も来年度にE棟に集約される予定です。具体的な院生室の場所や面積、割り振りについては未定ですが、工事費や移転費用等が許す限り、使いやすい快適な院生室にするよう努力したいと考えています。
- ・リカレント教育については、今年度から、広域言語実践論の科目として英語リカレントコースのための英語教育論の授業を夜間に開設しています。
- ・論文投稿については、言語社会学会で学会誌『えくすおりえんて』を毎年発行していますので、そちらに積極的にご応募ください。
- ・論文指導については、それを題目とする授業は設けておりません。各指導教員が担当授業の内外を問わず、院生の論文執筆の進捗状況に応じて、個別的に論文作成の指導をするのが実態となっています。

（専攻不明）

○私は科目等履修生ですが、入学後、研究科の施設の使用方法についてまったく説明をしてもらえず、大学院係に問い合わせてもいつも曖昧な説明ばかりで困っています。どなたに聞けばいいのかもはっきりしません。その他、講演会や論文の中間発表などにも参加させていただきたいのですが、情報がまったく入ってこないため、機会をのがしている状態です。

<回答：科目等履修生の皆さんの施設利用等については、平成23年1月より取り扱いを明確にしました。詳しくは大学院係でお尋ねください。>

質問21：修了後の進路に関して、本研究科からの就職等に関するキャリア支援について、どのように考えておられますか、具体的にお書き下さい。【記述式400文字以内】

<回答>

（言語文化専攻）

○キャリア支援はないと言って等しいほど、学部や理工系の研究科にくらべて少ないように思う。

- 就職のキャリア支援が研究科で行われているとは知りませんでした。
- 私は大学などの高等教育機関での就職を希望していますが、大学などでの就職を希望する人のほとんどが、コネや紹介に頼っている現状があります。ですので、もう少し、一般に公開されている求人などを大学院生にお知らせしていただけたら嬉しいです。
- 教員採用情報は随時 JREC-IN のサイトで確認できるため情報収集は学生に任せればよいと考えるが、就職の際に必要な履歴書の書き方、面接の際の対策などは 1 人では習えないためそれらの情報を随時または定期的に集団または個別に教える担当員がいたらいいのではないかと考える。
- 度々、就職等のご案内、ご連絡をいただきありがとうございます。ただ、恐縮に存じますが、上記 19 で書かせていただきました通り、21 のご質問につきましては、詳細に存じませんので、回答を、恐縮に存じますが、控えさせていただきます。
- まだよくわかりません。自分の研究の精度を上げることに精一杯で、修了後の進路についてはどのような支援を本研究科から受けられるのかという情報には疎いです。幸い、指導教員がよくきめ細かく相談に乗って下さいますので、楽観的過ぎるかもしれませんが、それほど心配はしていません。学生支援室のようところでベテランの職員さんからアドバイスを受けたりできるのでしょうか。あればそれはそれで、また違った目で見ることができるので有難いと思います。
- (言語社会専攻)
- 教育関係の情報が欲しいです。
- 個人的、口コミなどでしか情報を得られていない。ウェブサイト以外の情報も重要ですので、ぜひキャリアの方々の情報もほしいところです。
- 研究科からのキャリア支援の存在を知らない。
- 研究科からのキャリア支援の実態をよく知らないので何とも言えない。
- どの院生も等しくキャリア支援してほしい。国内外を問わず、就職先があれば、紹介してほしい。
- 私は本研究科で博士後期課程に進学することを考えておりますので、就職等に関するキャリア支援についてあまり知りませんが、将来お世話になるかもしれません。
- とても助かると思っています。普段就職の情報がなかなかないので、研究科から支援して頂ければと思います。ところが、キャリア支援についての情報をどうやって手に入れるかよくわかりませんが、よろしくお願いします。
- そのような支援について聞いたことがありませんので、なにも言えません。
- 受けたことがないので分かりません。
- 特に就職等の支援が身近に感じられない。
- もっとがんばってほしい。
- 自分の希望する職種について研究科からのキャリア支援は特には見受けられないが、コースの先生方や先輩方から掲示やメーリングリスト等で情報が入ってくることがあるためそれなりに満足している。
- 国の大学で、大阪大学から習ったことを教えるつもりです。

＜コメント：この質問は、3 年前に実施したアンケートにはなかった新しい質問です。大阪大学全体でキャリア支援の必要性が次第に強く認識されるなかで、本研究科におけるキャリア支援を今後どのように考えていったらよいか、その方向性を探るためにも、在学生の皆さんの意見や要望をうかがうこ

とにしました。しかし、そのような趣旨の質問であったこともあり、本研究科のキャリア支援の「存在を知らない」「聞いたことがない」「実態を知らない」などの回答が目立ちました。

研究科がこれまでキャリア支援のために行ってきたこととしては、研究科ホームページに院生の研究業績をアップしたり、毎年の院生の研究業績を『言文だより』に掲載したりするなどの試みがあります。しかし、これに応じてくれる院生の皆さんが数少ないことや、このような情報を提供していること自体があまり周知されていないことなど、その実効性を高めるための課題も残されています。他に、教育研究機関から寄せられた公募情報は、大学院係で閲覧できるようにしています。また、月に2回の『事務部からのお知らせ』を通じて、言語文化専攻教員にもその情報を周知する努力も続けています。

しかし、本研究科のように小規模の独立研究科が、就職等のキャリア支援のための本格的な部署を設けることは、現実的にほとんど不可能といわざるをえません。ただし、質問18への回答も示すように、「大学・短大・高専などの高等教育機関」への就職を希望する院生の皆さんが多いことを踏まえるなら、これらの諸機関との情報交換をさらに推進することが、ひとつの有効な方法になるのではないかと考えられます。

その具体的な方法としていま検討しているのは、同窓会組織を強化すること、そしてその同窓会組織と研究科との連携をより緊密なものにすることです。本研究科も今年度で22年目を迎えました。その間、多くの修了生が各地の大学・短大・高専などに就職し、現在もその数は増え続けています。しかし問題は、これらの同窓生の間で、また同窓生と研究科との間で、十分な連絡が取られていないことです。今後、同窓会組織のネットワークを充実させるのに協力するとともに、その組織と協力して、キャリア支援のための修了生講演会や相談会などを企画し、在学生と同窓生との交流を図っていきたいと思っています。

ただし、大学等の教育研究職への就職が、一昔前の「口利き」や「コネ」ではなく、公募のかたちをとるのが一般的になった現在、そのチャンスをつかみ取るには、院生の皆さんが、求められる学位を取得したり、各種の学会で活動したりするなどの実績を積むことが前提になることはいまでもありません。いずれにしても、本研究科におけるキャリア支援については、まだ積み残しの課題も多いと思われますので、院生の皆さんの意見・要望もうかがいながら、その具体的な可能性を探っていきたいと思います。＞